ニュース

追悼　松浦 誠先生

2005 年 12 月 27 日，スズメバチ類の研究の世界的権威である松浦誠三重大学名誉教授（前生物資源学部教授）が逝去された．松浦先生には本誌にも何度もご寄稿いただいているが，特に 24 巻 2 号から 25 巻 4 号にかけて，約 1 年半，全 7 回にわたっての長期連載「都市における社会性ハチ類の生態と防除」は，本誌読者の方にも記憶に新しいところと思う．

この連載は松浦先生からのご提案で始まったものであるが，連載開始の比較的早い時期に，先生から十二指腸癌との闘病中であること，科学者として大学病院の研究に貢献したいので治療計画を優先するから，原稿送付のタイミングが不確定で迷惑をかけるかも知れないことなどを伺った．そのため予定よりも原稿の到着が遅れたときの先生からの現状報告の電話の声の調子から，先生のお加減を推し量って，その都度一喜一憂していた時期もあった．

当初全 4 回程度の連載をとのことでお受けした企画は，先生から徐々に回数を増やしたいとの申し出をいただいて，結果として 7 号連続の大連載となった（「都市における社会性ハチ類の生態と防除」として再編集・合本化されている）．別の企画にとお考えであった海外事情を含めるにあたっては，今となってみれば，ご自身に残された時間を見越してのご決断であったのだと思う．まさに全身全霊を注ぎ込んで完結させた渾身の著作である．その掲載をさせていただいたのは「ミツバチ科学」として大変名誉なことであった．

先生は三重大学を 2005 年 3 月で定年退官され，名誉教授となられた．お元気になられたら一度機会をうかがって合本刊行のお礼にと思っていた矢先の訃報で，お目にかかることはかなわなくなった．ご生前の功績を偲び，慎んでご冥福をお祈りしたい．

セイヨウオオマルハナバチ 特定外来生物指定へ

環境省は，2005 年 12 月 7 日の特定外来生物等分類群専門家昆虫類グループ・セイヨウオオマルハナバチ小グループ会合，翌 8 日の昆虫類等陸生節足動物グループ会合を経て，19 日の特定外来生物等専門家会合においてセイヨウオオマルハナバチを特定外来生物に指定することを決議した．今春の閣議にて採択される可能性が高い．指定後も，生業維持の観点から，国内でのセイヨウオオマルハナバチの花粉交配における利用は継続されるが，許可制となり，外界への逃亡防止などの管理責任が発生し，農家の負担は大きくなると予想される．

環境省外来生物法ホームページ
http://www.env.go.jp/nature/intro/

「ミツバチ科学」刊行遅延と購読会費

3 月末に 2006 年度分（「ミツバチ科学」27 巻 2 号～ 28 巻 1 号分に充当）の案内，会費請求をさせていただきました．刊行に見合う時期の請求とするべきですが，年度での経費支払いを求める方もあり，年度内に処理できるように 3 月中の請求となりました．雑誌の方は，まだ記事の収集が間に合っておらず，刊行遅延は慢性的状況ですが，できるだけ早く本来の刊行期に戻せるよう努力を続けて参ります．

編集後記　セイヨウオオマルハナバチの特定外来生物指定がほぼ確定し，一方でニセアカシアがどうなるのか，気をもむ日々が続いている．緑化樹として検討が続けられているため，蜜源植物としての貢献を認識してという話になっていないのもミツバチとの関わりでは安気でない．ニセアカシアの有用性を訴え，指定に動かないように理解を求めるとともに，何が侵略種としての「負の問題」で，受益者である養蜂家がそれに対して何らかの役割を果たすことができるかどうか，そうした議論も出てよいであろう．

雑誌の刊行が遅れ，その問題も含めて，重要情報の配信が滞っている点は深くお詫びしたい．　（純）